

主題：神のエコノミーと分与

メッセージ 7

命の霊の法則によって神の分与の中に生きる

聖書：ローマ 6:6, 7:15-8:13

I. 神の分与の中に生きることに對するかぎは、ローマ第 8 章にある命の霊の法則です。

ローマ第 8 章は、真剣に追い求める者に対する章です—— 7:24-8:2, 28-29. 詩 105:4 :

- A. ローマ第 7 章は、「肉の中」にいる経験です。ローマ第 8 章は、「霊の中」（神聖な霊が人の霊の中に住み、二つ霊が共にミングリングされて一つ霊となったもの）にいる経験です—— 4, 9-10, 16 節. I コリント 6:17. II テモテ 4:22。
- B. ローマ第 8 章にある命の霊の法則に対する享受は、ローマ第 12 章にあるキリストのからだの實際へとわたしたちをもたらします。わたしたちがからだの中で、からだのために生きるとき、この法則はわたしたちの内側で働きます—— 8:2, 28-29, 12:1-2, 11. ピリピ 1:19。

II. わたしたちは命の霊の法則としての内住のキリストを経験するために、ローマ第 7 章とローマ第 8 章にある三つの命と四つの法則を見る必要があります :

- A. 創造された人の命と善の法則は、わたしたちの魂の中にあります。この法則は天然の人の命から、すなわち、人自身から来ています—— 7:21-23. 創 1:31. 伝 7:29。
- B. 邪悪でサタンの命と罪と死の法則は、わたしたちの肉の中にあります。この法則はサタンから来ており、サタンは罪として信者の肉の中に住んでいます——ローマ 6:6. 7:15-20, 23-24. I ヨハネ 3:10. ヨハネ 8:44. マタイ 13:38. 23:33. 3:7. ローマ 3:13。
- C. 非受造の神聖な命と命の霊の法則は、わたしたちの人の霊の中にあります。この法則は神から来ており、神はその霊として人の霊の中に住んでいます—— 8:2, 10, 16. ヨハネ 1:4. 10:10 後半. 14:6 前半. I コリント 15:45 後半。
- D. この三者と三つの法則は、彼ら（神、人、サタン）がエデンの園にいたのとほぼ同じように（創第 3 章）、今や信者の中にいます。
- E. 信者たちの内側の三つの法則に加えて、彼の外側に神の律法があります——ローマ 7:22, 25。

III. ローマ第 8 章の主題は命の霊の法則です :

- A. あらゆる命には法則があり、法則でさえあります。神の命は最高の命であり、この命の法則は最高の法則です——参照、ヨハネ 1:4-5. 12:24. 14:6 前半. 10:10 後半. I コリント 15:45 後半。
- B. 三一の神は、肉体と成ること、十字架、復活、昇天を通して手順を経て、命の霊の法則となり、わたしたちの霊の中に「科学的な」法則、自動的な原則として設置されました。これは神のエコノミーにおける最大の発見、最大の回復の一つでさえあります——ローマ 8:2-3, 10-11, 34, 16。
- C. 命の霊の法則、すなわち複合の霊の法則は、罪と死の法則からわたしたちを解放し、わたしたちのために罪と死の問題を解決します—— 2 節前半. ピリピ 1:19。

- D. 命の霊の法則は、神聖な命の自然な力です。それは神聖な命の自然の特性と生来の、自動的な機能です——ローマ 8:2. ピリピ 2:13. エゼキエル 36:26-27. 箴 30:18-19. イザヤ 40:28-31. ヘブル 12:2 前半. ピリピ 4:13. コロサイ 1:28-29。
- E. わたしたちの霊の中へと設置された、命を与える霊としての手順を経た三一の神は、電気にたとえることができます。わたしたちの内側での神聖な「電気」の法則としての神の活動は、わたしたちが協力してこの法則に「スイッチを入れる」ことを必要とします——ピリピ 2:12-13。
- F. わたしたちが主に触れ続け、主との接触の中にとどまっている間に、命の霊の法則は自動的に、自然に、苦もなく働いて、命としての神をわたしたちの存在の中へと分与し、罪と死の法則に打ち勝ちます——ローマ 8:10, 6, 11 :
1. わたしたちは自分自身の奮闘や努力をやめる必要があります——ガラテヤ 2:20 前半. ローマ 7:15-20 :
 - a. 罪が法則であり、わたしたちの意志が決してこの法則に打ち勝つことができないことを見たことがないなら、わたしたちはローマ第7章の罠にかけられます。わたしたちは決してローマ第8章に到達しないでしょう。
 - b. パウロは何度も欲しましたが、その結果はただ失敗を繰り返すだけでした。人が行なうことができる最善のことは、決心することです——7:18。
 - c. 罪がわたしたちの内側で眠っているとき、それは単に罪ですが、わたしたちが善を行なおうと欲することによって、それがわたしたちの中で目覚めるとき、「悪」になります——「そこでわたしは、善を行なおうと欲しているわたしに、悪が共にあるという法則を見いだします」——21 節。
 - d. わたしたちは欲するのではなく、思いを霊に付け、霊にしたがって歩き、イエスを見つめるべきです——8:6, 4. ピリピ 2:13. ヘブル 12:1-2。
 2. わたしたちの霊の中で生きるために、わたしたちは時間を取って主を見つめ、祈ってイエスと交わり、彼の御顔に浸り、彼の美しさで浸透され、彼のすばらしさを発散する必要があります——詩 27:8. 105:4. 詩歌, 568 番。
 3. わたしたちは祈りによって、また依存の霊を持つことによって、内住の、設置された、自動的な、内で働く神と協力し、こうして命の主また働きの主との交わりを維持する必要があります——I テサロニケ 5:17. エペソ 6:17-18。
 4. わたしたちは命の霊の法則の働きのために、霊の中の命の感覚を顧みて、命の交わり、神聖な命の流れの中にとどまる必要があります——ローマ 8:6, 16. I ヨハネ 1:2-3, 6-7. マラキ 2:15-16 :
 - a. 消極的な面で、死の感覚は死の感覚、すなわち、弱さ、空虚、不安、不穩、圧迫、渇き、暗さ、痛みなどです——ローマ 8:6 前半。
 - b. 積極的な面で、命の感覚は命と平安の感覚、すなわち、力、満足、平安、安息、解放、活発、潤い、明るさ、心地よさなどです——6 節後半。
 - c. 命の感覚は、神の命とイエスにある実際にしたがった良心の意識です——エペソ 4:18-21。

IV. わたしたちの霊の中の命の霊の法則によって生きるために、わたしたちは肉が何であるかを見なければなりません——参照、ローマ 8:6, 13 :

A. 肉とは腐敗し、汚染され、変質した体です：

1. 人の体は本来は純粹でしたが、人の墮落を通してサタンは自分自身を人の中へと注入し、人の体は肉となりました——創 3:6. ローマ 7:18 前半。
2. わたしたちの体は「罪の体」(6:6) また「この死の体」(7:24) です。罪の体は、神に対して罪を犯すことでとても活発で、力に満ちています。この死の体は、活動して神を喜ばせることで弱く、力がありません (18 節)。
3. わたしたちがなおも生きている限り、わたしたちの贖いの日まで、罪と死の体は常にわたしたちと共にあります——参照、8:23。
4. 「肉」という言葉はまた、わたしたちの墮落した全存在を指しています。人は総合的に肉です。なぜなら、今日、墮落した存在は墮落した肉の支配の下にあるからです——3:20. 創 6:3 前半。
5. 肉は罪、死、サタンの「集会所」です。肉は絶望的な状態であり、決して改善されることはできません——ローマ 7:17-18, 21. 参照、ヨハネ 17:15 :
 - a. 肉は神に敵対し、神の律法に服従することができません。
 - b. 肉は決して神を喜ばせることができません——ローマ 8:7-8。

B. 罪はわたしたちの肉の中のサタン自身です：

1. 罪はわたしたちを欺き、わたしたちを殺し (7:11)、主人として支配し、すなわち、わたしたちの上に統治権を持ち (6:12, 14)、わたしたちに自分の意志に反して事を行なわせることができます (7:17, 20)。このすべての活動は、罪が生けるパースンであることを見せています。
2. 罪は邪悪な者、サタンの邪悪な性質であり、彼はアダムの墮落を通して自分自身を人の中へと注入し、今や罪の性質となって墮落した人の中に住んで、活動し、働いています——参照、マタイ 16:22-23。
3. ガラテヤ第 2 章 20 節でパウロは言います、「生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです」。ローマ第 7 章 17 節で彼は言います、「もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪です」。これは、罪がわたしたちの内側の別のパースンであることを見せています。
4. わたしたちの肉の中に善なるものは住んでいません。なぜなら、肉は罪としてのサタンによって完全に所有され、占有されているからです——18 節前半。

V. 神は彼のエコノミーのために、彼の知恵と主権の中でわたしたちの罪深く、醜い肉を用い、わたしたちを強いて霊に転向させます。それは、わたしたちが命の霊の法則によって生き、その霊をさらに得ることができるためです——8:2：

- A. わたしたちは霊の中にいるか、肉の中にいるかのどちらかです。わたしたちがいるべき第三の場所はありません——4:13 節。
- B. 法理的に言えば、サタンもわたしたちの肉も十字架上で一度で永遠に罪定めされました (3 節. ヨハネ 3:14. ヘブル 2:14. II コリント 5:21)。しかし、神は肉をわたしたちと共にとどまらせ、わたしたちを強いて霊の中のキリストに転向させ、もはや肉に信頼させないようにします (ピリピ 3:3) :
 1. 罪深く、醜い肉によって与えられる助けがなければ、わたしたちはそれほど真剣になって主を得ようとせず、彼がわたしたちの中へと造り込まれるようにしない

でしょう。

2. わたしたちの目標は聖別、靈性、勝利であるかもしれませんが、神の目標はご自身をわたしたちの中へと造り込むことです。しばしば、わたしたちは困難な状況にあるとき、さらに主に開き、さらに進んで彼に転向し、さらに進んで彼にご自身をわたしたちの中へと造り込んでいただきます——ローマ 8:28-29。
3. わたしたちの困難、敗北、失敗、失望はわたしたちを強いて、肉には望みがないことを認識させます。肉が善いのはただ、わたしたちを強いて靈の中のキリストに転向させ、わたしたちを真剣にならせて靈の中へと入らせ、わたしたちに目を覚まし続けさせて靈の中にとどまらせることです——マタイ 26:41. エペソ 6:17-18。
4. 主はわたしたちに勝利があるかどうかには注意しません。主はただ一つの事、すなわち、わたしたちがその靈としてのキリストを獲得することに注意します——ピリピ 3:8. II コリント 3:18。

VI. 今日わたしたちは一つの事を顧みる必要があります。それは、靈にしたがって歩いて、その靈としてのキリストを獲得し、勝ち取ることです——ローマ 8:4. ピリピ 3:8. ローマ 10:12-13. エペソ 6:17-18 :

- A. わたしたちの肉は複合のものであり、罪、死、サタンと複合されています。わたしたちの靈も複合のものであり、キリスト、その靈、恵みと複合されています——II テモテ 4:22. ローマ 8:16. ガラテヤ 6:18。
- B. 靈にしたがって歩く人だけが、地方召会を建造するのにふさわしい肢体となることができます。もしわたしたちにそのような歩みがないなら、遅かれ早かれ、わたしたちは自分の地方召会にとって問題となるでしょう——5:16-26。

VII. わたしたちが神聖な命の自動的な法則としての内住の靈を享受することは、キリストのからだの中にあり、キリストのからだのためであり、わたしたちを神格においてではなく命、性質、表現において神であるのと同じにし、わたしたちを、すべての種類の機能を持つキリストのからだの肢体に構成することを目標としています——ローマ 8:2, 28-29. 12:1-2. ピリピ 1:19. エペソ 4:11-12, 16。